



# 2025年3月期 決算補足説明資料

2025年5月

東証スタンダード市場：3423

 株式会社 **エスイー**

1. 2025年3月期 連結決算実績

2. 2026年3月期 業績予想

1. 2025年3月期 連結決算実績

2. 2026年3月期 業績予想

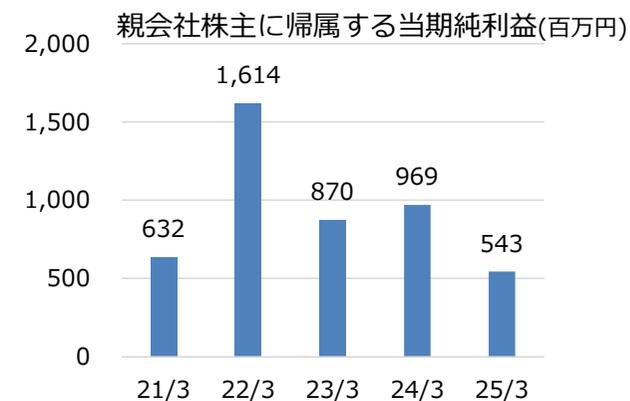
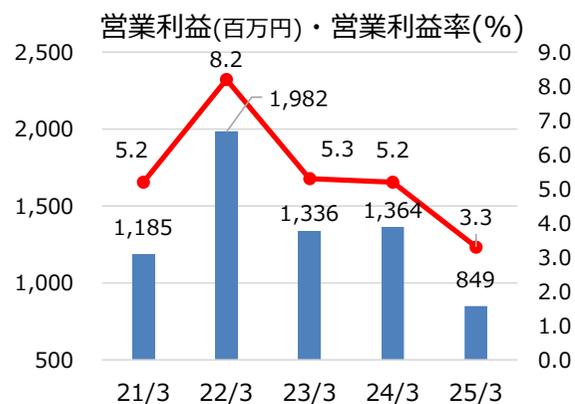
# 1-1.決算ハイライト (1)

## サマリー 前年同期比～減収減益

- ・ 建設用資機材の製造・販売事業の好調は継続しているものの、大型案件の剥落により前年同期比では及ばず、全セグメントにおいて減収。減収効果・増工分の未承認等により売上総利益も減益。
- ・ 中期経営計画（以下：中計）関連施策の推進を中心とした人件費・経費の増加により、営業利益以下は大幅な減益。

(百万円、%)

	2024/3期 実績		2025/3期 実績		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
売上高	26,474	100.0	25,887	100.0	△587	△2.2
売上総利益	7,182	27.1	6,916	26.7	△265	△3.7
営業利益	1,364	5.2	849	3.3	△515	△37.7
経常利益	1,373	5.2	885	3.4	△488	△35.5
親会社株主に帰属する当期純利益	969	3.7	543	2.1	△426	△43.9

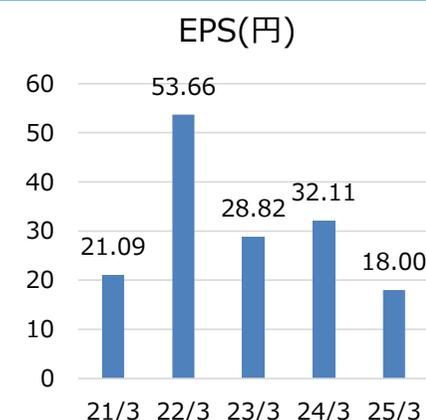
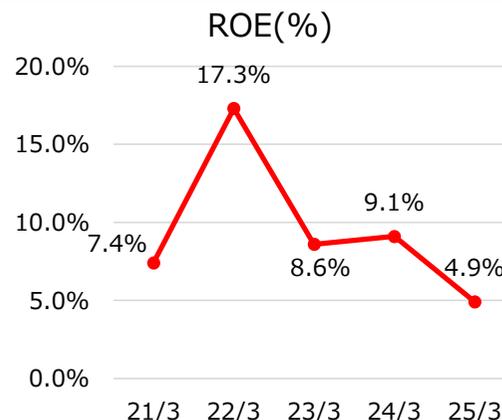
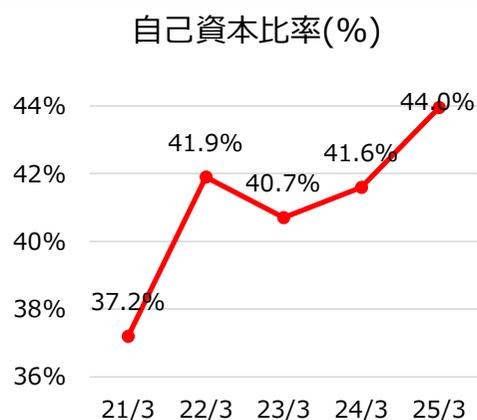


## 1-2.決算ハイライト (2)

### サマリー 資産効率性は低下、自己資本比率は上昇

- ・親会社株主に帰属する当期純利益の減少によりROEは大幅に低下。
- ・有利子負債は減少、自己資本比率は上昇。財務の健全性には著変なし。

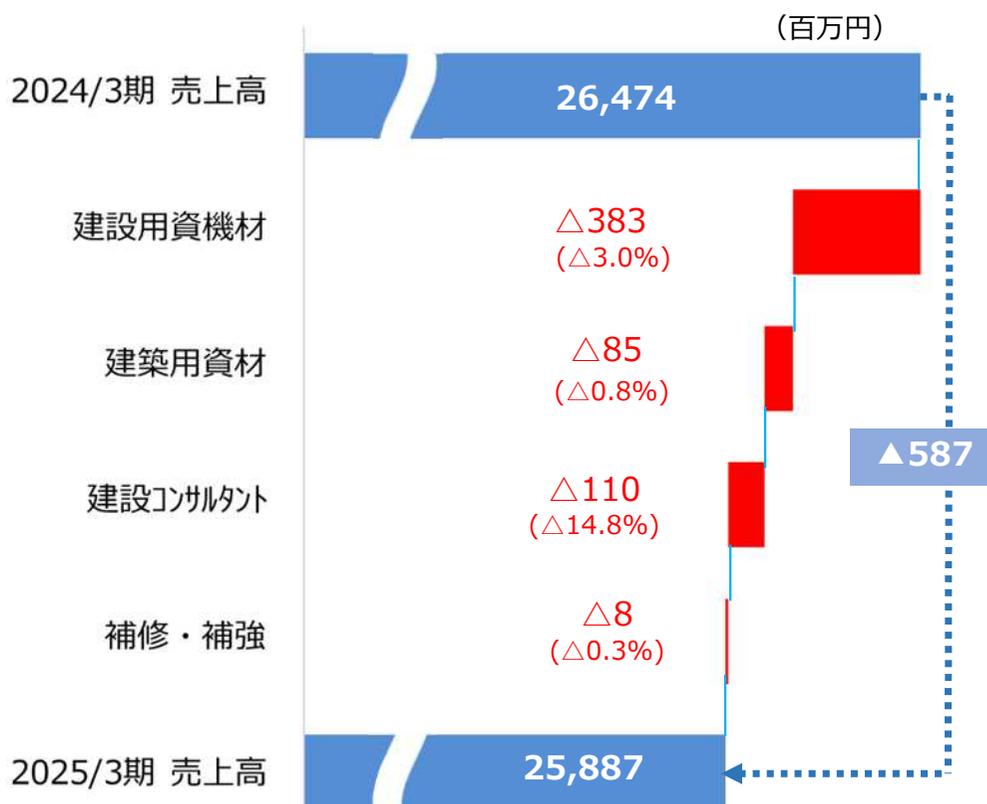
	2023/3期	2024/3期	2025/3期	前期比
有利子負債 (百万円)	5,919	6,074	5,502	△572
純資産 (百万円)	10,428	11,024	11,221	+197
自己資本比率 (%)	40.7	41.6	44.0	+2.4
FCF (百万円)	△1,294	968	807	△161
ROE (%)	8.6	9.1	4.9	△4.2
EPS (円)	28.82	32.11	18.00	△14.10



# 1-3. 売上高のセグメント別増減

## ポイント

- ・ 全てのセグメントにおいて減収。建設用資機材の製造・販売事業の減収額が最も大きく、減収率では建設コンサルタント事業が最も大きい。
- ・ 建設用資機材の製造・販売事業は、高速道路リニューアル関連が引き続き好調であったが、前年度に比し、大型案件が少なく、工事現場の進捗状況により来期以降に繰り越す案件が増加。



### 建設用資機材の製造・販売事業

- ・ 高速道路リニューアル関連で橋梁ケーブル製品は好調。前年度に比し、年度後半は大型案件がなく、工事現場の進捗状況による繰り越し案件も増加。
- ・ 顧客への価格転嫁は進捗。

### 建築用資材の製造・販売事業

- ・ 建築金物分野の大型都市開発案件の工事が順調に推移。価格転嫁も進捗。
- ・ 鉄骨工事分野では期初受注案件の減少に伴う案件消化の減少に加え、増工の一部が認められず減収。

### 建設コンサルタント事業

- ・ JICA案件を中心とした期初受注案件の減少により案件消化も減少。受注消化予定案件の一部が次年度に工程変更となり売上減少。

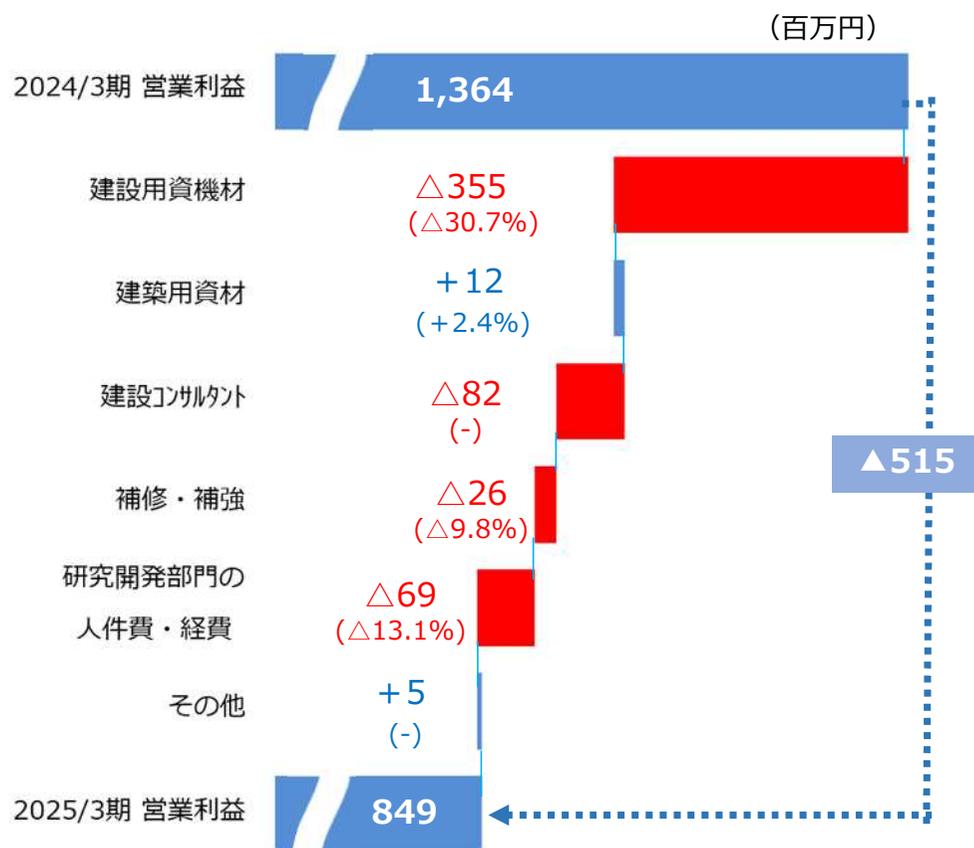
### 補修・補強工事業

- ・ 期初受注案件は減少したが、期中受注・消化案件が順調に推移し、微減にとどまる。

## 1-4. 営業利益のセグメント別増減

### ポイント

- ・建設用資機材の製造・販売事業は、減収のマイナス効果と中計推進による販管費の増加により、営業利益は前年度30.7%減少。建設コンサルタント事業は赤字拡大（2023年度▲18百万円→2024年度▲100百万円）。
- ・報告セグメントに属さない研究開発部門の人件費・経費が69百万円増加。大半が発電事業にかかる研究開発であり、中計の戦略的な資源配分に沿ったもの。



#### 建設用資機材の製造・販売事業

- ・減収効果・大型案件の端境期となったことによる売上総利益の減少に加え、中計の施策推進により販管費が増加。

#### 建築用資材の製造・販売事業

- ・鉄骨工事分野は減収効果・増工の一部が認められなかったことにより減益となったが、建築金物分野での価格転嫁の進捗による増益でカバー。

#### 建設コンサルタント事業

- ・減収効果ならびに次年度への工程変更により、営業赤字は▲100百万円に拡大。

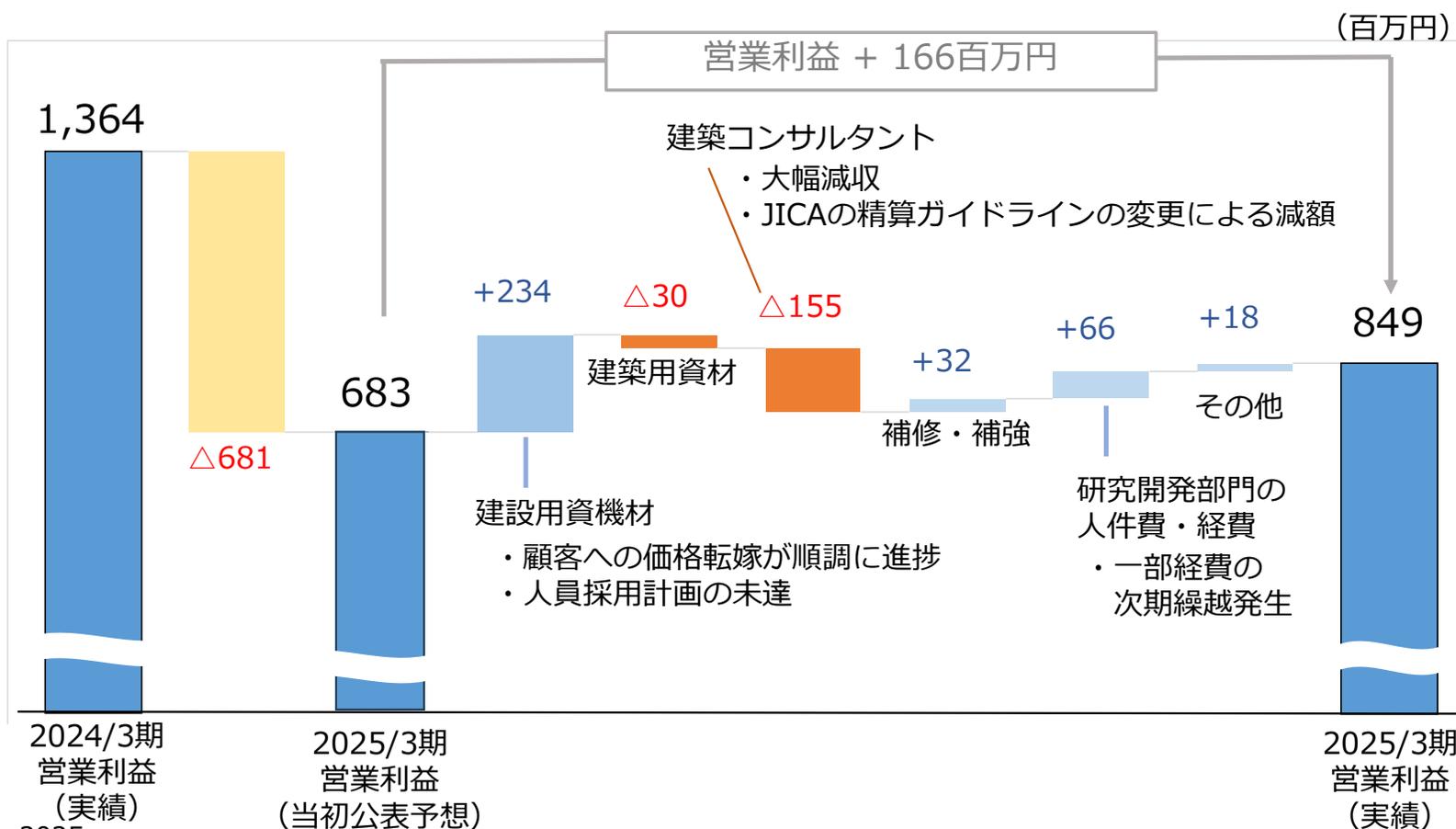
#### 補修・補強工事業

- ・大型工事の中での追加工事の増額が認められず利益率は低下。他の工事案件で利益率改善を試みるも、カバーできず。

# 1-5. 連結損益～当初予想（2024年5月10日公表予想）比

**ポイント**

- ・ 2024年5月10日公表予想値（以下：当初予想）比では、能登震災復興案件の工程見直し等により、売上高は548百万円の下振れとなった。営業利益は166百万円の超過。
- ・ 営業利益は、建設コンサルタント事業で大きく下振れたが、建設用資機材の製造・販売事業で売上高の未達の影響を大きく上回り、研究開発部門を中心として一部経費が次期に持ち越したことより、大幅な超過となった。



# 1-6. バランスシート

**ポイント** ・有利子負債は大幅に減少、自己資本比率は上昇。D/Eレシオも低下。

(単位：百万円)

資産			負債		
2024年 3月末	2025年 3月末	増減	2024年 3月末	2025年 3月末	増減
26,432	25,470	(主な内訳)	15,408	14,248	(主な内訳)
		△232 現金及び預金 △804 受取手形、売掛金及び契約資産 △198 電子記録債権 △153 仕掛品 △137 原材料及び貯蔵品			△556 借入金 △394 電子記録債務 △78 支払手形及び買掛金
					△1,159
			純資産		
			2024年 3月末	2025年 3月末	増減
		+234 建設仮勘定 +175 土地 +42 機械装置及び運搬具-純額 +38 建物及び構築物-純額	11,024	11,221	(主な内訳)
		△962			+543 親会社株主帰属当期純利益 △392 株主配当金支払い
					+197

		2024/3期	2025/3期	増減
運転資本	(百万円)	5,757	4,943	△813
有利子負債	(百万円)	6,074	5,502	△572
純資産	(百万円)	11,024	11,221	+197
自己資本比率	(%)	41.6	44.0	+2.4
D/Eレシオ	(倍)	0.55	0.49	△0.06

# 1-7. キャッシュフローの状況

**ポイント** ・ FCFは807百万円、借入金の削減を進めたことにより現金及び現金同等物の期末残高は前期比235百万円減少。

	24/3期	25/3期	(百万円) 増減
営業収入 (税金等調整前当期純利益+非資金損益項目)	2,227	1,710	△517
運転資金 (営業活動に係る債権債務増減)	△29	631	+660
利息・配当金・保険金	△24	△37	△12
税金等	△394	△417	△23
その他	336	△180	△516
営業キャッシュフロー	2,114	1,705	△409
営業キャッシュフロー (除く運転資金)	2,144	1,074	△1,069
定期預金	-	△3	△3
有価証券	-	-	-
固定資産 (除く有価証券)	△1,157	△881	+275
その他	11	△12	△24
投資キャッシュ・フロー	△1,145	△897	+248
フリーキャッシュ・フロー (FCF)	968	807	△161
借入・社債	230	△556	△787
株式	△390	△391	+0
リース	△94	△91	+2
財務キャッシュ・フロー	△254	△1,039	△785
現金及び現金同等物の期末残高	5,116	4,881	△235

**主な要因**

未払消費税等の減少  
及び未収入金の増加

工場リニューアル・  
子会社社屋移設のための土地購入

借入金の純減

## 1-8.株主還元（配当予想）

**ポイント** 配当予想13円/株は変更なし。

### 中期経営計画の株主還元の基本方針

- ・直接的な利益還元（配当）と成長投資による中長期的な株価上昇によるトータルリターンを目指す。
- ・配当金については、長期安定配当を基本とし、株主資本配当率（DOE）3.5%以上を目安とする。

【中期経営計画での株主還元の方針に基づく試算】

	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期 (計画)
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	870	969	543	57
				↓ 当期純利益(計画)より単純試算(他の条件不変の前提)
株主資本 (百万円)	10,320	10,897	11,049	10,714
1株当たり配当金 (円)	13	13	13	13
配当金総額 (百万円)	392	392	392	392
配当性向 (%)	45.1	40.5	72.2	680.6
株主資本配当率 (%)	3.80	3.60	3.55	3.67

(注) 2025/3期の配当金は、2025/6月の株主総会で決定  
 株主資本配当率=配当金総額÷期末株主資本（新株式払込金を除く）×100

1. 2025年3月期 連結決算実績

2. 2026年3月期 業績予想

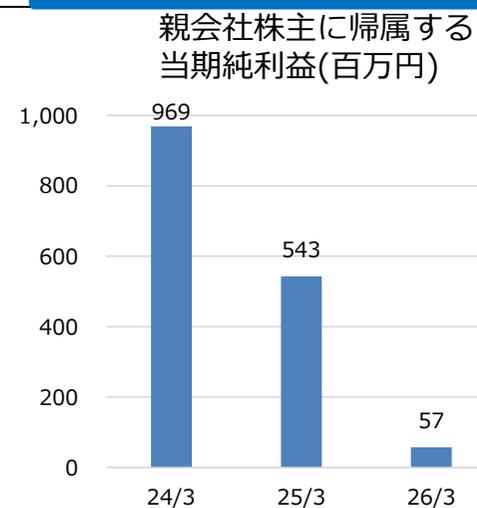
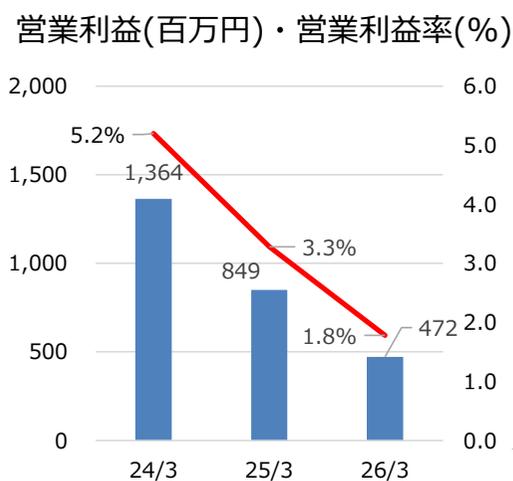
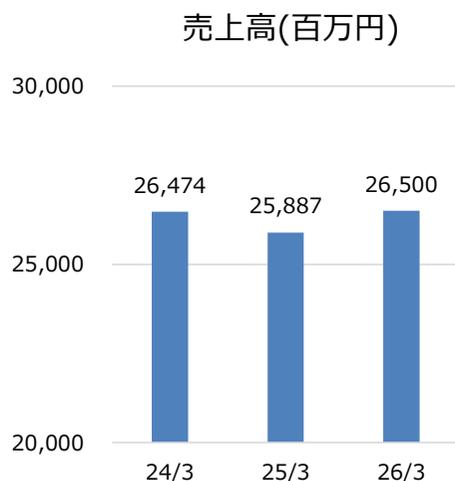
## 2-1. 2026年3月期の連結業績予想

### ポイント 増収減益

- ・売上高は、建設用資機材の製造・販売事業で大型案件の端境期ではあるものの、増収を予想。
- ・利益面では、研究開発部門の人件費・経費が大幅に増加するため、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益は大幅減を予想。

(百万円、%)

	2024/3期 実績		2025/3期 実績		2026/3期 計画		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
売上高	26,474	100.0	25,887	100.0	26,500	100.0	+612	+2.4
営業利益	1,364	5.2	849	3.3	472	1.8	△377	△44.4
経常利益	1,373	5.2	885	3.4	438	1.7	△447	△50.5
親会社株主に帰属する当期純利益	969	3.7	543	2.1	57	0.2	△486	△89.4

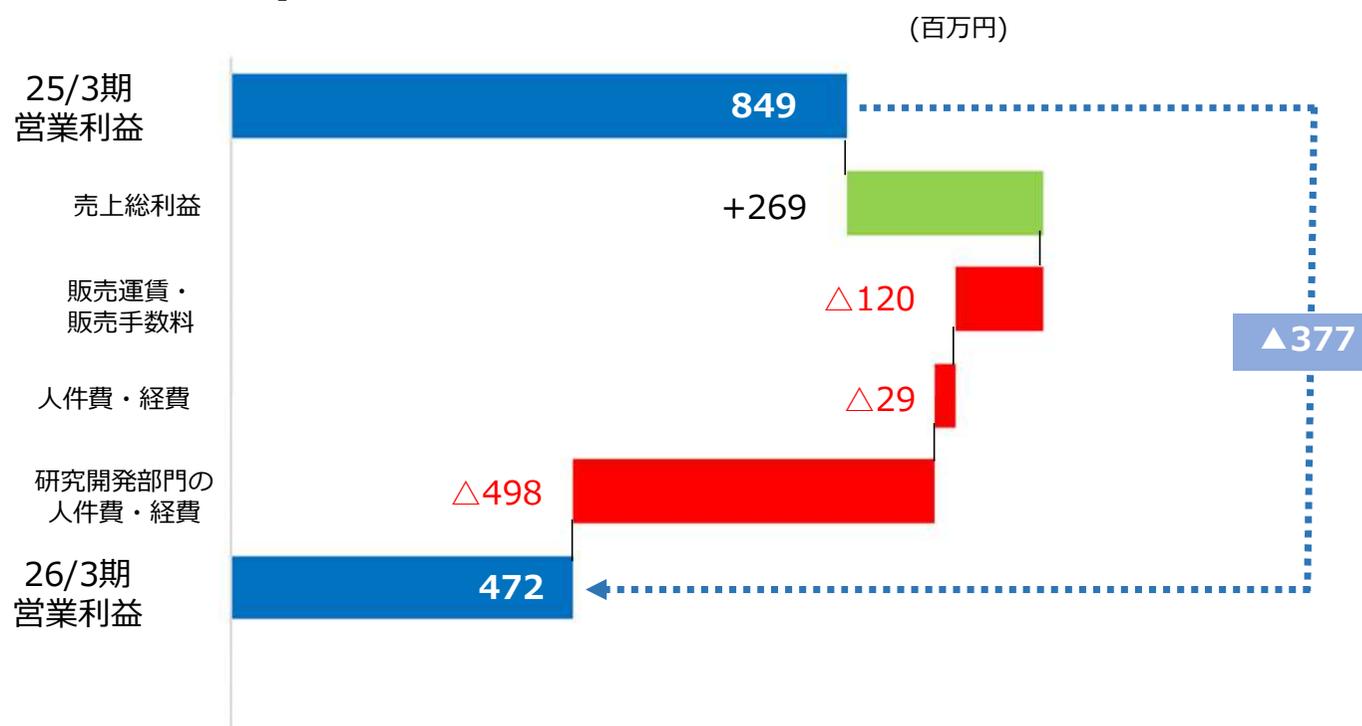


## 2-2. 営業利益

### ポイント 減益の主要因は、研究開発部門の人的費・経費の大幅増加

- ・ 増収効果等により売上総利益は増益。
- ・ 2025/3月期に増強した研究開発部門の人的費・経費は、研究開発の大幅強化により、2026/3月期は更に大幅に増加。

[営業利益の増減要因]



## 将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の分析、業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、現時点で入手可能な情報に基づく見解や将来の業績に係る見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの分析・業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

## International Engineering Maker

